

文化の窓

『神社議員集会日誌』
(飛騒市行政資料)



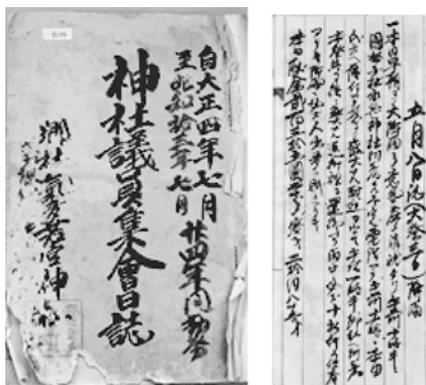
千代の松原公民館には、飛騒市行政資料のうち、旧古川町・旧細江村・旧小鷹狩村の資料が所蔵されています。その中に、大正時代から昭和時代初期の古川祭や気多若宮神社の歴史を知るうえで欠くことのできない資料『神社議員集会日誌』があります。

『神社議員集会日誌』(以下「日誌」と略称)の筆者は清水文七氏で、大正4年(1915)7月から昭和13年(1938)6月までの23年間、会計担当の氏子総代を務めました。清水氏は、昭和13年に氏子総代を退任する際に『原社(気多若宮神社事務引継目録)(飛騒市行政資料)をまとめているが、それに記される引継書類の中に、「日誌」が見られます。

『日誌』は、表題からもうかがえるように、神社議員会(なお、神社議員は、氏子総代と各区分長より構成される)や氏子総代会に関する記述が主であって、その協議の経過や決定事項が記されています。ここで紹介しましょう。大正9年(1

920)3月5日条に、この日行われた神社議員集会において、「神代石碑文八東郷(平八郎)閣下決定シ、願書ヲ奉呈スルコト」(括弧は引用者註)が決議されたとあります。

また、「日誌」には、神社議員集会や氏子総代会以外の記述も見られます。たとえば、大正12年(1923)5月に行われた気多若宮神社臨時大祭や、大正8年(1919)4月に行われた船津町(現在の神岡町)の大津神社臨時大祭に参列した時の模様、あるいは、大正15年(1926)に気多若宮神社が県社に昇格するまでの経緯などが記されています。



左：表紙
右：大正12年(1923)5月8日条。

気多若宮神社臨時大祭の模様が記載

問 文化振興課
☎ 0577-73-7496



高齢者による交通事故のニュースが多くなってきている昨今、ご自身で運転免許返納を考えてみたり、またご家族が、この手の報道を見る度に不安になり、返納してほしいと思われている方も少なくありません。2015年の警視庁のアンケート調査では、運転免許証の自主返納をされた方の平均年齢は80歳で、中でも75歳から79歳が半数を占めていたという結果が出ています。しかし、運転技能や注意力等の面では個人差があるので、一概に年齢だけでは判断できませんが、ここで自主返納を考えたとき、次の点をチェックしてみてください。①ブレーキとアクセルを踏み間違えることがある②標識や信号を見落としてしまうことがある③同乗者と会話しながら運転できない④ウィンカーを出し忘れることがある⑤車庫入れで扉や壁をこすることが増えた等、いかがですか、加齢とともに体は明らかに変化してきます。これまでは優良ドライバーだったからといって、これから

もそうとは限りません。とはいっても、交通機関が発達した都会とは違い、飛騒市では日常生活の移動手段として車は欠かせないものです。車がないことで、不便を感じることは多々あることでしょう。また、自分はまだまだ衰えていないという自信をお持ちの方もみえるでしょう。しかしいつかは返納しなくてはなりません。大きな事故を起こしてからでは遅すぎます。

車を使わなければならない場面の問題を一つ一つクリアできるように、考え直してみませんか。使わずに済む手段が何かあるはずですよ。市でも70歳以上の方が自主的に免許を返納された場合、返納から3年間、『いきいき券』が毎年1冊(4500円分)支給される支援がありますし、食料品購入では宅配サービスを利用する方法もあります。今までは考えてもみなかったことも、視野に入れてみてはどうでしょう。しばらくは不便や不安を感じるかもしれませんが、また自分の引き際を自らが決断してゆくことは、難しいかもしれませんが、『命に関わる重要な事』です。家族の意見や周りの状況を見ながら運転免許証自主返納を前向きに検討してみてください。

月一度、終活巡回相談日を開設しています。(要予約)
■2月26日(金)
古川町公民館
9:30~16:00

問 予
飛騒市終活支援センター
(飛騒市社会福祉協議会内)
☎ 0577-73-3214

今年度の『まめなかな』では、減塩の必要性や方法、減塩食品による「こっそり減塩」やスマートミールなどをお伝えしてきました。しかし、減塩食品を購入しようとしても売っていないければ使えません。そこで、市内で減塩食品を販売して下さる商店を《まめとく減塩協力店》として認定することになりました。

まめとく減塩協力店は「減塩」のステッカーやタペストリーが目印です。飛騨市出身の書家茂任青邨氏が揮毫いただいた書をもとに作成しました。

協力店では減塩醤油をはじめとする減塩食品を取り扱っていただいております。手に取って購入いただけます。身近な商店や酒屋さんですので、ぜひ、立ち寄ってみてください。



神岡	古川	河合・宮川	地区
ゆうき房(結城酒店)	ぬくもりの湯すばいふる	ゆうわくはつす	まめとく減塩協力店(順不同)
前田本店	駿河屋 古川店	飛騨かわいやまさち工房	数下商店
	(有)渡辺章酒店	飛騨まんが王国	
	(有)川辺食料品店	ママショップうえの	
	(有)後藤酒店	北平酒店	



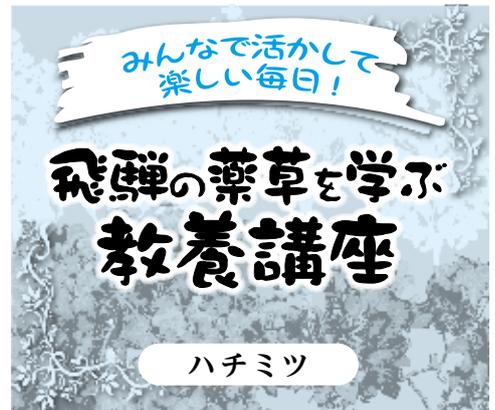
問 古川町保健センター
0577-73-2948

(令和3年2月1日現在※申請中含む)
まめとく減塩協力店はまだまだ参加店を募集中です。飛騨市のHP上(左QRコード)でも減塩協力店マップや減塩についてお知らせしています。ぜひ、アクセスしてみてください。

知らない人はいなしと言えほど有名な食材であるハチミツ。ミツバチが様々な花の蜜を集めてきて加工・貯蔵することでできるハチミツは、糖分、ミネラル、ビタミン、酵素といった多様な成分から構成され、はるか昔から健康に、美容にと幅広く活用できる万能薬として重宝されてきました。意外なところとして殺菌の効果も高く菌の繁殖を抑えるのでエジプトのミイラの防腐処理に使われています。

また、胃に負担をかけずに消化吸収でき、すぐにエネルギーや脳の活力に変わることをはじめ、貧血、動脈硬化、不眠、二日酔い、虫刺され、関節痛など、その効果や効能を挙げたらキリがないほどです。ただし、ハチミツに含まれる酵素が熱に弱いので、生姜湯に入れるなどお湯に溶かす際には人肌程度までお湯を冷ましてからハチミツを入れるようにしてください。

薬草を加工したり、おいしく取り入れたりするのもハチミツはとても重宝



します。例えば、クズの花などの薬草の乾燥粉末をハチミツで練ると丸薬にできます。粉を固形化できるだけでなく、ハチミツの殺菌効果で長期間保存できます。また、美味しくない薬草酒にハチミツを入れると飲みやすくなり効果もアップします。

イタドリ絞りの汁にはその名のおり痛みを取ったり疲労回復したりといった効果がありますが、新芽や若葉の汁にハチミツを入れると解熱やリウマチにも効果があります。

飛騨市の薬草のエキス、メナモミも生葉をハチミツペーストにするとその効果がアップします。

村上先生おすすめのドクダミワインはドクダミの青汁とハチミツで作る最強?の強壮ドリンクです。

薬草が採れないこの時期のミネラル補給にいいですし、これからの活用にも重宝します。ハチミツの効能がほとんど失われた加工品も出回っているため、純粋ハチミツを使うようにしましょう。



村上光太郎 「薬草を食べる」より

問 地域振興課 0577-62-8904